

北米 生食用ブドウはメキシコ産から米国産に移行

[FreshPlaza 2024年6月25日](#)

ソノラ州はメキシコ最大の生食用ブドウの産地であり、今シーズンは合計2,200万箱の輸出が見込まれている。今週末までに、2,050万箱が米国との国境を越えると予想されており、AALPUM(ソノラ州の生食用ブドウ生産者協会)の事務局長であるセルジオ・ルーゴ氏は、「今シーズンの出荷の大部分は今週末までに完了し、残り数回の出荷は7月になるだろう」と話す。

昨年と比べると、ソノラ州の出荷シーズンはまったく異なる始まり方をした。昨年は流通段階の在庫が皆無であったが、今年はソノラ州が出荷を開始した時点で市場は満杯であった。パンドル・ブラザーズ社のジョン・パンドル氏は、「私は先週トロント(カナダ)にいたが、まだチリ産の生食用ブドウが小売店に並んでいた。信じられないことではないが、かなり珍しいことだ」とコメントした。新しいブドウ品種は収穫が遅くなる傾向があり、その結果、今のチリは6月の市場で、5年前と比較してより存在感を示す可能性がある。

サンホアキンバレーの出荷開始 今後は、ソノラ州やコーチェラヴァレー(カリフォルニア州南部)からカリフォルニア州の主要なブドウ産地であるサンホアキンバレー地域への順調な移行が見込まれる。現在、ソノラ/コーチェラ地域の出荷は約80%完了しており、この数字は週末までに90%に近づくであろう。同時に、サンホアキンバレーでは、早ければ今週後半にでも1箱目のブドウを収穫する可能性がある。7月8日の週末には、早生品種生産者のほとんどが収穫を開始する。

ソノラ州産のブドウは、アリゾナ州ノガレス市で米国との国境を越える。ノガレスの推定在庫は、昨年の600万箱に対し、現在は300万~400万箱である。ノガレスにある在庫と、ソノラ/コーチェラ地域でこれから収穫されるブドウを合わせると、供給量の約3週間分に相当する。パンドル氏は、「これだけの量があれば、サンホアキンバレーのブドウに整然と移行できるはずだ」と結論付けた。(一部省略しました。)

執筆者: マリーケ・ヘムズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事) 米国 カリフォルニア州産ブドウの本格出荷の開始は平年並み

[FreshPlaza 2023年6月24日](#)

カリフォルニア州のブドウの出荷は、コーチェラバレーの出荷シーズンの終わりから、サンホアキンバレーからの大量の出荷へと円滑な移行が予想されている。ミラベラ農場のフィリップ・マルカリアン氏は、「コーチェラの出荷量は年々減少しており、以前は400万~600万箱だったのが、今では約200~250万箱しかない」と言う。メキシコもブドウの出荷シーズンの概ね半ばである。

サンホアキンバレーからの出荷は、7月10日から14日の間に開始される予定である。マルカリアン氏は「作柄はまずまずで、出荷量に関しては昨年とほぼ同じだ。タイミングは昨年よりも平年に近く、昨年に比べて16~18日程早いようだ。昨年はもっと涼しかったが、今年は平年並みの天候パターンだ」と話す。

ミラベラ農場の品種別(フレイム、サマーローヤル、アイボリー、ティムソン、アリソン、パッションファイア、クリムゾン、スカーレットローヤル、オータムローヤル、オータムキング、レッドグローブ、シュガーワン等)の出荷量も昨年と同様のものである。マルカリアン氏は「古い品種の多くは取り除かれ、新しい品種に置き換えられたが、置き換えた新しい品種は今やかなり生産が本格化していると思う」と言う。ミラベラ農場は今シーズン、近年導入されたレッドマリブシードレス品種の出荷量を3倍に増やした。

需要については、昨年よりも強いと予想されている。とはいえ、カリフォルニア州は人件費をはじめとして、資材や燃料などの投入コストの上昇に引き続き対処している。それでも、出荷価格は昨年と同程度か、または10月から12月のカリフォルニア州産ブドウの出荷の終わりに向けて若干上昇する程度と見込まれる。なお、天候要因がその時点での価格に影響を及ぼす可能性もある。(一部省略しました。)

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)